

新春来福

～年の初めお賑やかに!～



新年最初の正月行事を担当させていただきました。昨年はコロナの影響もあり断念せざるを得ませんでしたが、今年は去年の分まで多くに利用者様、職員共に楽しんで笑顔が溢れる正月行事になるよう準備を行いました。

各日共通して利用者様、職員皆さんの笑顔に溢れ会場は多いに盛り上がりました。

また無事故で安全に行事を終えた事も各職員の方のご協力があったからこそです。

ありがとうございました。

(副行事委員長 坂本裕磨)



まがたま

令和6年 1月 第141号
社会福祉法人上口福祉会
障害者支援施設まがたま
〒699-0201
松江市玉湯町玉造1649-2
TEL0852-62-2535
FAX0852-62-2586



正月の三が日行事を、きずな棟会議室にて開催いたしました。

一日目は福引イベントを行いました。1等を目指して楽しみにくじを引きます！参加賞のジュースや龍の置物を持ち帰り、運が試される一日でした。

二日目は書初め会を行いました。見本を見ながらゆっくり丁寧に書く利用者様もいらつしやれば、思い思いの文字を書く利用者様もいらつしやいました。私が想定していたよりもたくさんの方がお越し下さり、会場は大盛況でした。

三日目はカラオケ大会を行いました。みなさまお好きな歌を歌ったり、他の方の歌に合いの手を入れたり、他の方の歌を静かに楽しんでいらつしやいました。

(生活支援員 片倉佐文)



命をつなぐ みんなが救助隊

12月21日、27日と2日間で、全職員対象として、応急手当での基礎知識を学びました。

マニュアルの応急手当での基礎知識の読み合わせ、ハイムリック法、背部叩打法、応急救命措置法についての動画視聴、異物除去方法の実技、AEDの使用方法についてを勉強致しました。

勉強会では実技を交えた実践的な演習も行い、緊急時における手当ての実際の手順を体験できました。これにより、知識の定着だけでなく、実践への自信もつけることができました。

今後も職員のフィードバックを元に内容を、より実践的で有益な勉強会を提供していきたいと考えています。

(事故防止副委員長 石倉常好)

平成26年から年明け、新年に、その年が明るく輝かしい年となるよう、全職員の願いを込めた漢字を毎年選考し、各事業所に掲げています。

今年も「輝きの一文字」を募集し、集まった48字の応募の中から「一」という字が、令和6年の一文字となりました。

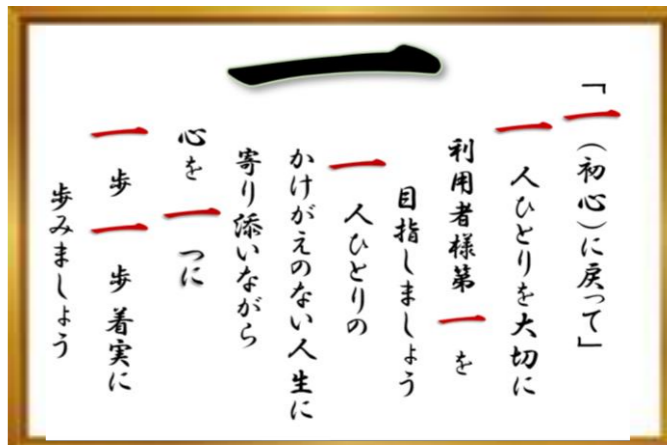
昨年は、いろんなことがあった1年でしたが、新しい年がはじまり、改めてみんなで一つになる、新しいスタートをきる、という思いも込めて、「一」という字に決めました。

今年の輝きの一文字「一」という字を掲げ、より一層職員一丸となって、みなさまと共にこれから歩んで参りたいと思います。

(広報委員長 錦織優気)

新たな一歩

～一人一人を大切に～



幸せのカタチ



副班長 烏田 龍治



班長 錦織 優気

「強度行動障害支援者養成研修」合計で5日間にわたる研修に参加させていただき、強度行動障害に対する深い理解と共感が得られました。

この研修では同じ生活支援員として働いている職員の発表、グループワーク、専門家の実践的で貴重なアドバイスを聞き、学ぶ事ができました。個々の状況に適切な支援を普段から意識し、適切なサポートやコミュニケーション、目の前にいる行動障害のある方を支えるために必要な「考える力」を身につけるべく日々精進して参ります。

(副班長 烏田龍治)

「福祉サービスクラス研修会」私は、10月24日に、「福祉サービスクラス研修会」に参加して参りました。

この研修で一番心に残ったことは、「期待があるからこそ」「サービスクラスの質をあげるチャンス」と積極的に汲み取り、真摯に対応する心構えや、姿勢の大切さでした。

まがたまを利用して下さる利用者様、関わって下さる全ての方々への感謝の気持ちを忘れず、優い心を持って、これからも働いていきたいと、改めて強く感じた研修となりました。

(生産活動班 班長 錦織優気)

ご要望

今回は苦情がありませんでした。今後も、みなさまからの苦情やご要望を真摯に受け止め、安心安全な施設づくりに努めて参ります。

編集後記

あけましておめでとうございます。今年も、辰年！辰年は十二支の中で最も縁起のいい干支とされておられ、運気が上昇して夢が叶いやすい年と言われています。皆様にとって幸せな1年になりますように。(桑原奈々)

錦織優気 桑原奈々 松本啓介 今井宏幸
松浦洋治 松岡隼矢 石田裕雅 小室唯奈 土江和輝



松浦洋治 松岡隼矢 石田裕雅 小室唯奈 土江和輝



当広報に掲載された写真につきましては、プライバシーに配慮し、予め、掲載の同意を得ています。

笑顔のフシゼント ～心はずむ神聖な1日～

12月25日、体育棟にてクリスマス会を開催しました。昨年はコロナの影響で、クリスマス会を含め様々な行事が規模縮小や開催を中止せざるを得ない状況となり、今年のクリスマス会は、初めての主催当ということもあり、なんと少しでも開催して利用者様を喜ばせたいという思いが強くありました。当日は、飲み物やケーキの提供、クリスマスツリーの点灯やのど自慢大会、サンタクローズによるプレゼント配布などを行いました。



サンタに扮して利用者様にプレゼントを手渡した時「ありがとー！」と言って頂くと共に利用者様の笑顔が見られ、私自身も嬉しくなり、開催でき本当に良かったと実感しました。最後に、至らぬ点ばかりでみなさまには多々ご迷惑をお掛けしましたが、来年度も行事委員として利用者様の笑顔溢れる行事がひとつでも多く開催できると良いなと思っています！

(生活支援員 鷲田瑞稀)

ぬくもりの空間 心も体もぽっかぽか

雪がちらちら舞うこの季節。生産活動グループのとまと班休憩室へ立ち寄ると・・・日本の冬ならではのまことに「アレ」です！なんと、こたつが登場していました。利用者の皆さんにとっても、どこか暖かく、家庭の温かささえ感じられるものではないでしょうか。季節に合わせて、休憩室を模様替え。利用者の皆さんからもたくさん笑顔があふれていました。季節を肌で感じ、そして心で感じられる、素敵な空間。立ち寄ってみてください。

(課長 松本啓介)



「福」おもてなし ～幸せを呼ぶ場所～

正月になると、まがたま各所には門松が設置されています。実はこれ、全て園芸班の利用者さまと職員による手作りです！毎年12月になると竹を取ってきて、綺麗に切断し、一つひとつ丁寧に飾り付けをしています。インパクト抜群の門松は、通る人を立ち止まらせ、みんなを笑顔にしてくれます。今年もまがたまに、たくさんの方々が訪れますように。

(広報副委員長 桑原奈々)



「もち」をこめて！ 期待ふくらむお正月

年末恒例の風物詩行事。この数年はコロナ過で中止を余儀なくされていましたが、2023年の締めくくりに行事として帰ってきました！それが、餅つき会です。新年を迎えるお正月飾りとして、鏡餅は欠かせずとはできません。例年鏡餅は、自ら作成して飾るようにはしてあります。冬の季節とは思えない温かい陽気となった12月28日(木)に開催しました。熱々に蒸したもち米を、固まらないうちに素早く力強くついてきれいに成形する。たくさんの方々の皆様と元氣よく餅つきを致しました。手慣れている利用者の方もいれば、初めて杵を手にしてつく方もいて、和気あいあいと声を掛け合いました。一生懸命たくさんの方々の餅を作りました。



できた餅は各事業所に鏡餅にするのと、職員配布を行って美味しく食べていただきました。利用者の皆様には、具だくさんの羊煮をご用意し、楽しんで頂きました。四季や文化を感じられる大事なイベントなので、これからも継承をしていきたいと思っております。

(生活支援員 松本康之)

えんぎもの料理 おなかいっぱい



▲朝食盛り合わせ



▲おせち料理

まがたまでは新しい年のお祝いとして1日の朝食は盛り合わせ、昼食にはおせち料理と赤飯を提供しました。正月ならではの料理ということもあり、楽しみにしておられる利用者さまも多くいらっしゃいます。黒豆・数の子・伊達巻など、さまざまな縁起料理が盛りだくさんで皆さん「お腹いっぱい！」と喜んで頂きました。その後も、散らし寿司、うな井といつもより豪華な献立が続きました。令和6年も調理職員一同、心を込めて美味しい食事を利用者様に届けたいと思います！本年もどうぞよろしくお願いたします。

(管理栄養士 川西美希)

弦を弾けば、会場に響き渡る日本風の音色。「琴修会」さんによる大正琴の音色は、日本ならではの美意識、侘び・寂びの精神が研ぎ澄まされる演奏でした。大正琴は、普通の琴よりも小さなボディと、鍵盤を押しながら音を出すことが最大の特徴です。「福田屋」さんの和菓子と味わいながら聴く演奏は、相性バツグン。「ああ日本に生まれてよかった！」と思わずにはいられません。

(広報委員 松岡隼矢)

大正浪漫の調べ ～響き渡る日本風の音色～

